

審判研修 道外派遣参加報告書

大会名 第27回都道府県対抗ジュニアバスケットボール大会	期間 2014年3月27日(木) ~ 3月30日(日)
開催地 東京都 神奈川県 埼玉県 千葉県	会場 東京体育館 他
参加者 田中 充	所属地区名 名寄地区
講師 Aグループ…田中光夫 氏、福岡敏徳 氏	
実技研修、座学研修等の記録 ◇2パーソン分解練習 …プレゼンテーション・ハーフコート3on3・ハーフコート5on5 ◇モデルゲームを使用した3パーソン研修 …高校生のモデルゲーム、8分-2分-8分を1本	
実践実技1 日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など	
2013年3月28日 (金)	対戦カード 男子予選リーグ1 佐賀 36 vs 55 神奈川
主審 田中 充	相手審判 岩手県 小笠原 一隆 氏 (公認)
ゲーム前のカンファレンス内容 2人の視野の分担、3・4番エリアやリードが右に行った場面、オールコートデフェンスへの対応をそれぞれ確認した。神奈川が高さのあるチームなので、佐賀の守り方に眼を当てるように確認した。	
ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 講評 山口県 渡邊 博史 氏 (A級) ゲーム的にはしっかりまとめていたと思う。相手審判も含めてゲームを管理しているように感じた。時折、センターの守り方について線を引く場面も適切であったと思う。	
ゲーム感想 手を使うプレイに対して立ち上がりに整理することを心がけた。両ベンチ、選手ともにこちらの基準を理解してプレーしてくれたこともあり、ゲームもスムーズに進行していた。ただ、大きいセンターを守っているプレイヤーが手を使い続けたことによりファウルトラブルになってしまった。大きいセンターに対する守り方について、不当に手を使わせないようにプレイヤーに伝える工夫をもっと研究する必要があると感じた。	
実践実技2 日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など	
2013年3月29日 (土)	対戦カード 女子決勝トーナメント1回戦 岡山 41 vs 45 大阪
主審 田中 充	相手審判 長崎県 松永 慎也 氏 (公認)
ゲーム前のカンファレンス内容 2人の視野の分担、3・4番エリアやリードが右に行った場面、オールコートデフェンスへの対応をそれぞれ確認した。2人の協力の中でお互いに眼の当たっていないプレイをなくすように確認した。	
ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 講評 神奈川県 長谷川 裕 氏 (A級) 特に難しいケースや、審判が判定していないプレイもなく、1試合トータルしてまとまっていた。女子ということもあり、あまり早くないゲームであったので、次を捉える位置取りに余裕を持って取り組むと、より良くなると思う。 ＜本部 玉木氏より＞ 全く問題なくゲームを進めることができている。あとは。キャリアのない相手レフリーに対して、見ていないところ自分の動きでカバーできるようにできるかどうかAA級とA級の違いに現れる。	

ゲーム感想

特に難しいケースはなかったが、玉木氏の仰るとおりに相手審判を含めてより良い運営を行うという観点では新たにトライしていかなければいけないと感じた。これまでは、相手審判と「ゲーム中に話す」ということが中心であったが、相手審判を乗せるという意味では、自分の位置取りで相手審判に色々と伝えていかなければならないことだと感じる。

実践実技3

日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など

2013年3月30日（日）

対戦カード 男子準決勝 大阪 50 vs 37 福岡

主審 田中 充

相手審判 神奈川県 加藤 祭 氏（公認）

ゲーム前のカンファレンス内容

2人の視野の分担、3・4番エリアやリードが右に行った場面、オールコートデフェンスへの対応をそれぞれ確認した。2人の協力の中でお互いに眼の当たっていないプレイをなくすように確認した。また、どちらもドライブからの1on1を多用するのでリードでしっかり受けることと、リバウンド時に2人で協力して判定していくことを確認した。

ゲーム後、講師（主任）からのアドバイス 講評 長野県 山内 正隆 氏（A級）・青森県 中村 浩仁 氏（A級）

持ち味としている「丁寧の一つ一つのプレーを確認する」というところが発揮されていた。終盤に笛を入れた方が良かったのではと感じたプレイのある、1試合トータルしてまとまっていたと思う。オールコート時やフェイスガードされているプレイヤーについて、相手審判との協力もスムーズだったと感じる。

<本部 森本氏 より>

気持ちよく吹いていたので良かったのではないかと感じている。大きく問題はなかったと感じている。

ゲーム感想

全国大会最終日で初の主審であった。ゲームを任せられているという想いと、研修生として割り当てを勝ち取った相手審判にのびのび頑張ってもらいたいと思いゲームに入った。ここまで勝ち上がってきているチームだけ合って、余計な手や身体の使い方をすることなく、立ち上がり手のファウルと取り上げたことと、シュートブロックの場面をしっかりと見極めることである程度収まったと感じる。また、前日課題としてあがった、相手審判との関係についても自分の位置取りを工夫することで、相手審判に伝えられた部分もあったので、より工夫を重ねていきたい。

まとめ

例年同様、前日の研修会から大会最終日まで良い緊張感を持って過ごすことができました。最終日の割り当てを勝ち取ることを目標として臨みましたが、結果として最終日に主審の割り当てをいただけたことは大きな収穫となりました。本部の方たちにもある程度の評価をいただいたことにより、自信につながる大会でもありました。これまで道内や地元地区でご指導いただいた方々のおかげと感謝する次第です。

今後はこの経験を糧として、さらに上のステップへと上がるために、自分の判定や位置取りを大切にしつつ、相手審判も含めてゲームを運営していくことも含めてより研鑽を積んでいきたいと思っております。これまでとかわらず、この機会を財産とし、自分自身のさらなるレベルアップのためにモチベーションを高く保ち活動を続けていきたいと思っております。

今回もこのような機会を与えてくださった道協会並びに地区協会の皆様に感謝しつつ、この場を借りてお礼申し上げます。